

国立研究開発法人国立環境研究所  
契約監視委員会（第17回）議事概要

1. 日時

令和元年6月11日（火）13：30～15：30

2. 場所

AP秋葉原 4階 Iルーム

3. 出席者（委員（敬称略、五十音順））

天野 玲子（国立研究開発法人国立環境研究所 監事）  
加藤 暢一（国立研究開発法人国立環境研究所 監事）  
西山 温（古賀総合法律事務所 弁護士）  
野村 豊弘（日本エネルギー法研究所 理事長）  
古米 弘明（東京大学大学院工学系研究科 教授）

4. 開会

議事に先立ち、立川理事から開会挨拶を行った。

5. 議題

- (1) 前回議事概要の確認について
- (2) 平成30年度調達等合理化計画に対する自己評価及び令和元年度調達等合理化計画（案）について
- (3) 平成30年度下半期の随意契約の状況について（抽出審査2件）
- (4) 平成30年度下半期の一者応札・応募等事案のフォローアップについて（抽出審査1件）
- (5) その他

6. 議事

(1) 前回議事概要の確認について

事務局より資料に基づき説明が行われた。

(2) 平成30年度調達等合理化計画に対する自己評価及び令和元年度調達等合理化計画（案）について

事務局から資料に基づき説明が行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 一者応札アンケートの回答が多かった②と④を、具体的な対策がとれるような形で細分化する等の工夫を行った方がよい。

（→御指摘を踏まえ、細分化について検討する。） \*別添1

(3) 平成30年度下半期の随意契約の状況について

平成30年10月1日から平成31年3月31日までに契約締結した案件のうち、随意契約案件（30件）について審議が行われた。なお、抽出案件2件については担当者へのヒアリングが行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

○抽出審査1(平成30年度化学構造解析ツール(Daylight社製ソフト)HTTPアクセスライセンス更新)

- 唯一性の説明として、本ソフトウェアの導入の経緯と同様のツールの国際的な動向について把握しておくこと。  
(→御指摘を踏まえ、導入の経緯等の把握に努める。)

○抽出審査2(平成30年度高圧ガス設備及び凍結保存容器システム点検業務)

- 設計の独自性や常時監視を行う上での唯一性についてもっとわかりやすく記載すべき。
- 設計・施工業者のみしか維持管理を行うことができないといった状況を改善し、発注者・管理者として、設備やシステムをしっかりと理解し、維持管理のやり方を把握しておくこと。
- 毎年実施する業務であれば、複数年契約についても検討可能ではないか。  
(→御指摘を踏まえ、対応方法について検討していく。)

○書面審査

- 随意契約No1(～分子動力学シミュレーションに関する業務)、No17(～フォーラム開催業務)などは、「他に考えられる候補もあるが、他の候補は基準を満たさないから唯一である」と書かれており、単に「高い技術があるのはここだけだ」という書き方よりは分かりやすい。
- 随意契約No4(～太陽追尾装置交換用ミラーセット)は、唯一性の理由として書かれている「本条件」が何かわからない。
- 随意契約No7(～共鳴装置装置(NEC製)制御システムの更新)は、唯一性の理由が「互換性」なのか「代替性のない」なのかよくわからない。  
(→上記指摘を踏まえ今後、理由書をわかりやすく記載する。) \*別添2

(4) 平成30年度上半期の一者応札・応募等事案のフォローアップについて

平成30年10月1日から平成31年3月31日までに契約締結した案件のうち、前年度(複数年契約を行っている案件については前回契約)に引き続き一者応札・応募となった案件(9件)について審議が行われた。なお、事前に抽出された1件については担当者へのヒアリングが行われた。委員からの主な意見は以下のとおり。

○抽出審査(平成30年度資源・エネルギー統合施策評価モデル構築支援業務)

- 参考見積を複数者取ることが難しいことは理解するが、増やしていく努力が必要。過去の実績をもとに候補者リストを作成するなどして、声かけをしていくなどの努力はできないか。  
(→参考見積の複数者取得に向けた取組について検討する。その旨一者応札・応募案件フォローアップ票に追記する。) \*別添3

(5) その他

・次回の委員会は半年後開催予定。その際の抽出審査案件については、古米委員に案件を抽出いただくことに決定した。

最後に、事務局より、本委員会資料(一部)及び議事概要について、委員の確認及び承認後に国立環境研究所ホームページに公表することを報告した。

以上